「N_1にない/多い/少ない N_2」のくみあわせ

畢　暁燕

北京大学博士後期課程・大阪大学言語文化研究科研究生

e-mail address：bixiaoyan2001@yahoo.co.jp

「ない/多い/少ない」という「存在形容詞」は、一般の形容詞と異なり「形容詞＋名詞」という二単語のくみあわせの連語を作ることがまれである。「N_1 にない/多い/少ない N_2」、あるいは「N_1 のない/多い/少ない N_2」のように、三単語のくみあわせの連語を実現させることが多い。

連語は意味的にも、構造的にも完結性を持つために、三つ目の構成要素が必要になってくる場合がある。「ない/多い/少ない N_2」の場合、これだけでは意味的にも構造的にも不十分であるため、「N_1 に/の」の参与が義務的になり、「N_1 にない/多い/少ない N_2」、「N_1 のない/多い/少ない N_2」のような三単語のくみあわせを実現させるのである。本発表は、「N_1 にない/多い/少ない N_2」という三単語のくみあわせを中心に、「N_1 にない/多い/少ない」と「N_2」との間のむすびつき方について考察するものである。

「N_1 にない/多い/少ない N_2」の場合、連語の意味的・構造的完結性を保つために、まず（N_1 ノ/ニ等）が形容詞に従属し、次に（N_1 ノ/ニ等＋形容詞）があわせ従属句として主導語の N_2 に従属し、N_2 を具体化・限定することになる。

あわせ従属句と主導名詞との間のむすびつき方は大きく「空間範囲指定の存在量のむすびつき」「時間範囲指定の存在量のむすびつき」に分けられる。両者ともに、何らかの意味でモノ・ヒト・コトが存在・実現するための空間範囲、時間範囲を指定する「範囲指定」のむすびつきである。

「空間範囲指定の存在量のむすびつき」とは、主導名詞の存在する空間的領域及びその存在量を指定するむすびつきである。主導名詞と従属名詞のカテゴリカルな意味によって、更に「所在指定」「所属先指定」「部分の全体指定」「主体的空間指定」のように下位分類できる。

「時間範囲指定の存在量のむすびつき」は、主導名詞の存在・発生する時間的な範囲及びその存在量を指定するむすびつきである。主導名詞は具体名詞から抽象名詞まで幅広く、かなり自由に現れるが、従属名詞は一定の時間幅を持つというカテゴリカルな意味を含む時間名詞に限られている。

「空間範囲指定の存在量のむすびつき」における「N_1」と「N_2」との関係よりも、「時間範囲指定の存在量のむすびつき」のそれが恣意的で自由である。

＜N_1 にない/多い/少ない N_2＞連語は場合によっては「N_2 の存在量」を表す共に、「N_2 の特徴」をも表すことがある。